

経営比較分析表（令和6年度決算）

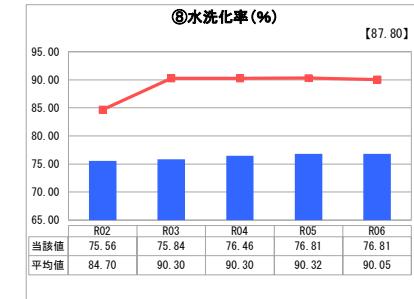
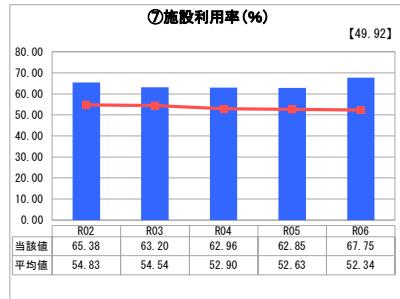
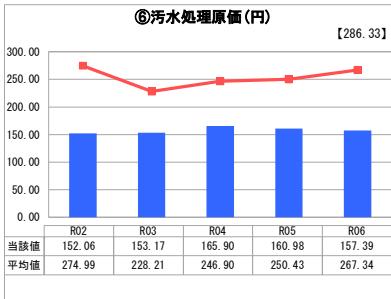
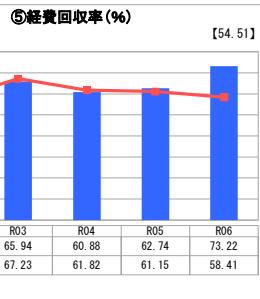
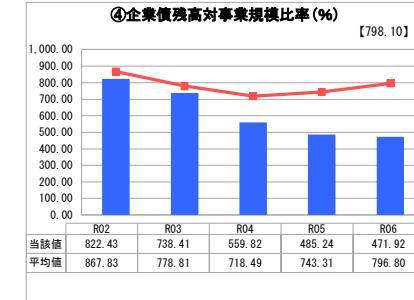
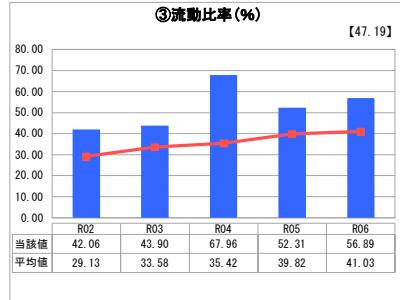
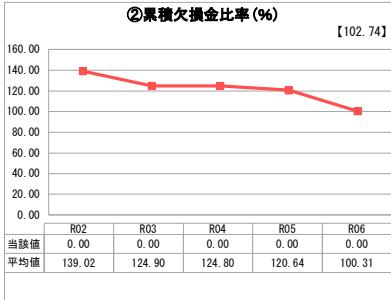
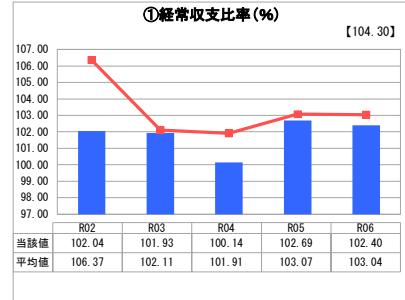
群馬県 太田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.46	7.49	77.46	2,530

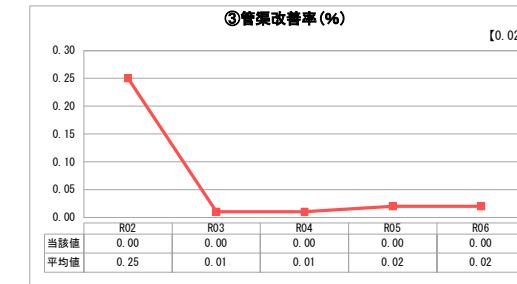
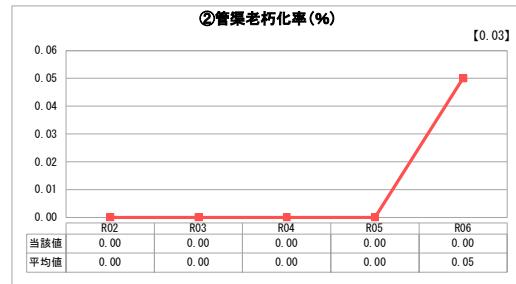
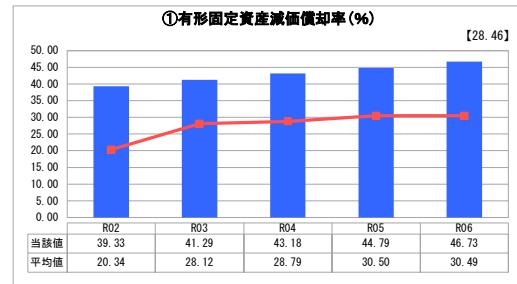
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
223,075	175.54	1,270.79
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,688	10.22	1,632.88

グラフ例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



* 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収支不足額について、一般会計からの繰入金(基準外)を前提としているため100%を超えることがある。
②累積欠損金は発生していない。
③現金及び預金の増のより数値は上昇した。
④企業債現高が減少により、数値が下降した。
⑤使用料改定による使用料収入増により数値は上昇した。
⑥使用料収入増により数値が下降した。
⑦全国平均は上回っているが、未接続世帯が多いため、数値は低い。
⑧未接続世帯が多いため、数値は低い。

供用開始後2~30年前後の地域が大半を占め、処理区域内既存住宅では浄化槽が使用されている。これらの住宅に対して順次接続するように働きかけているところであるが、思うように接続戸数が伸びていない。これは、経費回収率や汚水処理原価をさらに悪化させる要因となり得るため、引き続き接続率向上のための働きかけを継続していくべき。

2. 老朽化の状況について

①計画地域の整備が完了しているため、新規の建設改良費の計上がないので、数値は上昇している。
②法定耐用年数に到達したものがないため、計上なし。
③法定耐用年数に満たない管渠であっても、経年劣化による不明水の流入等が多くなっていることから管渠修繕を必要とする箇所が徐々に出てくると思われる。

老朽化対策にいち早く取り組む必要のある管渠は今のところ見受けられないが、今後の人口減少社会を見据えて公共下水道事業との汚水処理施設の統合を検討するなど、将来を見据えた効率的かつ効果的な老朽化対策に取り組んでいきたい。

全体総括

新規整備が完了している事業であるため、現在の最優先課題は水洗化率の向上となっている。この課題が解決されることで、必然的に経費回収率も向上すると期待される。

一方で、法定耐用年数未到達の管渠において、経年劣化に伴う不明水の流入が増加しており、これが維持管理費を押し上げる要因となっている。更に、処理場によっては老朽化等により処理効率の低下が見られることから、修繕による延命化を図るとともに、健全度の低い施設から優先的に更新工事に取りかかっている。今後も、収支の均衡を図りながら計画的に修繕及び更新工事を実施していくべき。また、令和6年6月換算分より、経費回収率を80%とする下水道使用料の改定を行った。今後も必要に応じて計画的かつ効率的な経営に努めたい。